

週日の説教

金 大烈 神父 2011年10月25日(火)

《人との関わり ～成功するように最善を尽くしましょう～》

お金をたくさんもうけた人、出世をした人、自分の目標を達成できた人が、人生に成功した人と言えるのでしょうか。しかし皆様は、そのように思って子どもを育てたではありませんか。しっかり勉強をして大学に入り、医者や弁護士のような立派な仕事につきなさい、と子どもを教育してきたのではありませんか。そのようにしなかった人は、自分のことをよく知っている人です。

成功した人の中には、お金はたくさん持っているのに、誰が見ても滅茶苦茶な家族だったり、人との関わりが下手だったり、何のために生きているのか分からないように見える人々がたくさんいます。ですから、成功したからと言ってうらやましく思わないでください。本当に自分の人生に成功したと言えるのは、関わりが上手に行っている人です。愛する人や慕う人、会いたくてたまらない人がたくさんいて、逆に自分を信じて支えてくれる人もたくさんいて、幸せだと思えるような人が成功した人です。

今日の福音(ルカ 13・18-21)で、イエス様は、「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。」と言いながら、『からし種』と『パン種』にたとえています。神様が結び合わせてくださったいろいろな縁が枝のように広がれば、私たちは天国に生きていることになります。しかし、関わり自体が恐れになっている人がたくさんいます。枝がないから鳥も巣を作ろうとしません。そのような人生を過ごしている人々がたくさんいます。そして、自分の中に問題があることは全然考えずに、この世を非難しているのです。

私たちが死んで神様のみ前に立った時、神様から言われるのは「どのくらい愛しながら生きて来たのか。」それだけです。それが基準になると思います。大切なのはお金ではありません。社会の出世でもありません。自分の周りにどのくらい忠実に築いた関わりがあるのか、です。それが一番幸せを感じさせるものなのです。

結局人間は、関わりの中であらゆる喜び、悲しみ、痛み、全てを感じます。それが分かっているのに目の前の関わりに最善を尽くさないのは、自分が矛盾だらけであることを表しています。

教会とは、いろいろな違いがあっても同じ方向に向かって、同じ心で歩もうとする人々です。励まし合いながら、お腹がすいても一緒にいれば頑張れる、と言える仲間がたくさんいれば、その人は絶対に失敗しないと思います。それが2000年前にイエス様がおっしゃった福音の^{まこと}真の中身だと思います。

ありがとうございました。